

平成24年5月

NNN 問題

拡大と変遷についての報告書

0、 初めに

ぬこぬこネットワーク（NNN）は、ぬこ連合（UN）における専門機関の一つで、ぬこの平和・安全維持という信念のもと、ぬこの派遣、または派遣先についての調査を行うのが主な活動内容である。約9,500年前、ギリシャ時代キプロス島の遺跡からその存在が既に明らかになっており、古くから世界各地で幅広く活動していることは知られているものの、その実態は未



人間とともに埋葬されたぬこの遺骨
（シルロカンボス遺跡,キプロス島）

だ明らかにされていない。現在は有限責任事業組合制をとっており、世界ぬこぬこネットワーク（WNNN）を中心としながら、日本では日本ぬこぬこネットワーク（NNNN）が自立性をもって活動している。他には営利目的の活動であることなどが特徴である。実態が明確でない故に、NNNに関するトラブルは耐えなかったが、戦後、多くの優良な報告書が作成され、それに基づいた施策が一定の成果をあげてトラブルは減少している、というのが近年の一般的な見解であった。

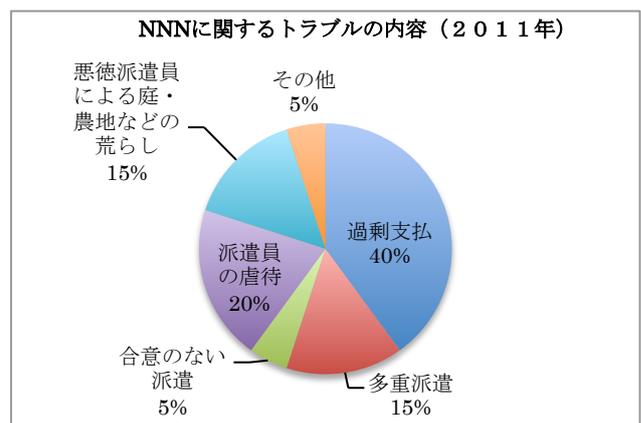
しかしここ数年、NNNのトラブルが再び増加傾向にあるということが、2011年の環境省による調査で明らかになった。

今回は、トラブル増加の原因とその内容についての報告を行う。

なお、今回の報告は日本国内の問題に限るものとする。そのため、文中で使用するNNNの表記は全て日本ぬこぬこネットワーク（NNNN）の略称である。

1、 過去のトラブルについて

最近のトラブルについて考える前に、過去の事例を紹介したい。詳細については、過去に多くの報告書が作成されているため、そちらを参照頂きたいが、近年の問題と比較するために簡単に振り返ることとする。



まずは悪徳派遣員（ぬこ）による庭や農地などの荒らし問題である。これには、ぬこの動物的特性が深く関与しており、悪徳ぬこを入れて欲しくない場所に近づけないようにするための有



雪の農地を荒らすぬこ

効な手法を、NNN が公式に発表している。安価なものでは、水を入れたペットボトルを置いておく、ネットを張る、卵の殻をまく、などがある。本格的なものとしては超音波式バリアなどが販売されており、科学の進歩、時代の変化に合わせて日々手法は変化させながらも、根本的には、ぬこが入らないようにする、という同じ理念のもと問題は個別に解決されている。

二つ目は、派遣員の虐待である。これについては、ぬこの平和・安全維持という彼らの信念を脅かす重大な問題として NNN が最重要視して取り組んで来たものである。ある一部の調査によれば、派遣先で虐待されるぬこの割合は95%にも上ると言われている。さらに虐待する人々



虐待されるぬこたち

に罪の意識がないことを NNN は大きな問題としてあげている。それどころが、虐待は一種の文化・芸術としてもはやされ、過去にはぬこ虐待絵画で名を馳せた歌川国芳（浮世絵師）や、ぬこを虐待する男の話を書いた谷崎潤一郎（作家）などが知られている。また近年では、虐待写真を誇らしげに自らのブログにアップする派遣先が急増し、それを「可愛い」とする意見も蔓延している。NNN が虐待防止のために企画し、80年代に流行した「なめぬこ」なる、ぬこを舐めるな運動も、NNN の意に反して虐待の追い風となった。

しかし、ぬこの方も虐待に慣れてしまい、虐待されながら眠ったりするものも出て来ているという調査報告もある。NNN は引き続き状況を注視するとともに、派遣員たちが虐待にノーを言うための意識強化、また派遣先の厳格な選

定に力を注いでいくという方針を明示している。

上記以外にも問題は様々あるものの、NNN の活動と人々の意識改革によって、過去20年ほど、問題は減少を続けていた。それがこの3年、再び問題の数が上昇してきているという。次章か

らはその原因について詳しく見ていきたい。

2、 最近の問題

減少していたはずのトラブルが何故最近になって増えたのか。数の増加を考える手がかりとして、私たちはトラブルの内容を考えることとしたい。近年、急激に伸びた被害項目としては以下の3つがあげられる。

- ① 過剰支払（5%）
- ② 多重派遣（2%）
- ③ 合意のない派遣（6%）

※括弧内は、2008年調査時から、2011年にかけての増加ポイント

項目自体に新しいものは見られず、表面的には過去のものとは変化はない。しかし、調査を進めて行く上で、それらの内容が大幅に変化していることを我々は知ることとなった。

以下、具体的な事例を見ながら考察を進める。

2-1、過剰支払

【被害者による供述】

昨日の夜、駅から家までの道歩いてたらさあ、サアーって黒い陰が横切ったわけ。これくらい。こんくらいのスピードで。超早いよ。俺ビビってさあ、マジ死ぬわ、と思って、え、あ、別に怖い話じゃないから大丈夫だよ、でさ、まあ早い話がその陰ってのはぬこだったんだけど、あ、うん、なんか焦らしても面白い話になりそうになかったから、うん、え、おい、そんなこというなよ、でさ、そのぬこがマンションの植え込みで隠れてるつもりなんだろうけど、丸見えなんだよね。お尻のとこだけね、見えてんの。バカだよー。でね、俺は口を鳴らしてね、(チュッ、チュッ、チュ) こんな感じでね、え？ キモイ？ うっせーよ、まあさ、その音に反応してぬこが顔を出したわけ。そしたらさ、それがね、泥棒ぬこだったわけ！ え？ 泥棒ぬこしんない？ 口の周りに黒い模様が入ってるやつ。泥棒ヒゲみたいに見えて超可愛い。まじまじ。結構いるよ？ ググったら超画像出てくつか



泥棒ぬこ（イメージ）

ら。

でさ、俺はその瞬間に興奮状態に陥って更に音を鳴らし続けたわけ。ぬこって目合わすと警戒するって言うから、目だけ逸らしてさあ。え、あ、そうでしょ。俺、結構ぬこ通よ。まあそんな感じでやってたらだね、なんとだね、出てきたのよ。そのぬこちゃん、植え込みから。それでヒョイ、とかいってちょっと高めのところから道路に飛び降りて、あ、うん、ここくらいかな、ね、結構高いよね、で、なんと、俺の足元にすり寄ってきたんだよー。マジマジ。スーっとかかって、体をね、足にこすりつけんだよね。もうね、昨日ほど短パンを穿いていれば良かったと思った日はないね。え、ハハハ、確かにそんな日他にぜってえねえな。でさあ、もう俺はケン死寸前なわけですよ。こんなかわいい子ちゃんが俺の側に来てくれたあ。ってもうほんと頭に血が上ったね。でだね、このぬこちゃんにどうしても懐いて欲しくて、俺は、何かあげなければ！ と咄嗟に思ったわけ。え？ うっせーよ。女にあげるもんは高すぎんだろ。で、鞆の中をあさったんだけど、何もなくて。何故俺は煮干しを持っていないんだ！ と心底自分を責めたよ。来たチャンスを掴めるのは常に準備してる者だけ、って格言あるじゃん？ マジあれ神レベルだと思ったわ。でも、神がこんな俺にも少しのチャンスをくれたんだよ。駅前のコンビニで俺シュークリームを買って、それを持ってたんだよ。ぬこにシュークリームなんて聞いたことないから迷ったんだけど、え？ ぬこに小判？ 何それ？ で、もうそのとき俺、超必死だったからね。そうそう、こんなチャンス逃せないと思ってね。慌ててその袋開けて、足元でまだスリスリしてたぬこちゃんに差し出したわけ。そしたらね、しばらくクンカクンカしてたんだけど、え？ なに？ クンカクンカ？ 言わない？ 言うっしょ、でさあ、そしたらさあ、パクって齧ったんだよ。シュークリーム。もうね、ほんと見せてやりたかった。マジでなんで写メ撮らなかったのか、俺は馬鹿だね。シュークリームはこんくらいなわけ。そいでぬこちゃんの頭こんくらい。でしょ、その対比だけでも興奮するっしょ。もっとスゴいのは噛み跡なんだよね。もうね、なんて言うの。超ちっさいの。そうそう。ぬこの口ってこんな小さいんだあ、って俺マジでもう、このまま死んでもいいって思ったよ。え、なに？ シュークリーム？ ぬこちゃんのために一応植え込みんとこに全部置いてきた。そうそう。で、今日もいたら今度こそは、と思って、鞆に煮干しを入れてきた次第です。うん、コンビニで売ってた。一袋五百円くらいだったかなあ？



クンカクンカ (イメージ)

【被害内容】

・シュークリーム	120円	
・煮干し	500円	計620円

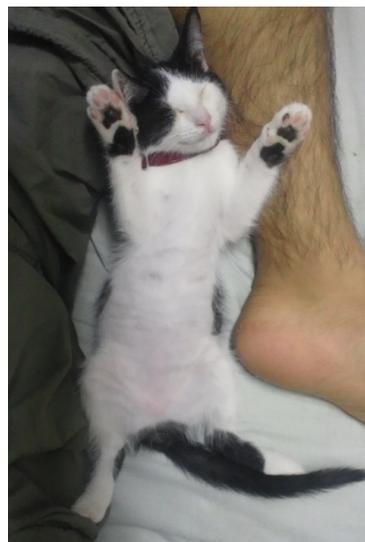
【問題点／課題】

この過剰支払が過去のものと同様に圧倒的に違うのは、被害者に被害者意識が欠けているという点である。それには、被害額が少ないことと、そもそも過剰に支払わされているという意識が支払う側に欠落していることが原因としてあげられる。しかし、小さな被害の集積が全体の調和を崩す引き金となることは大いに考えられることであり、たとえ小額でも訴えを起こすことの重要性を今一度徹底すること、また不法な過剰請求に対しては毅然とした態度をとることなどが求められる。

2-2、多重派遣

【被害者による供述】

うちにチイちゃんが来たのは去年の春くらいです。だから、もう一年半にもなります。そうか、そんなに経つんだ・・・あ、すいません。で、チイちゃんがうちに来たのは、そう、友達が道で拾ったんです。あまりにも無防備で車にひかれそうだからって、うちに連れて帰って来たそうです。人懐こいし、飼いぬこのような気がして、彼女、ポスターを作って近所の電柱やスーパーなんかには貼って飼い主を見つけようとしたそうで、でも1ヶ月経っても見つからなかったそうです。そしたら、大家さんがシビレを切らせて、そう、ペット禁止のマンションだったんですけど、飼い主が見つかるまで、ってことでお許しをもらってたそうですが、もう無理だって。私が話を聞いたときには明日には施設に送らなきゃなんない、というときでした。その



くつろぐぬこ（イメージ）

話を聞いて私、思わず「じゃあ私が飼うよ！」って言ったんです。旦那にも相談せずに勝手に決めちゃって。フフフ、今考えたらあのとときの私大胆でした。あ、すいません、とにかくそういうほんとに成り行きって感じで来たんです。でも、チイちゃんが来てくれて、ほんと良かったと思ってます。もう、うちに来るなり全然怖じ気づく様子もなく、ぬこって新しい環境に慣れるの時間かかるっていうじゃないですか。なのにチイちゃんはどういううちに来るなり、リビングのソ

ファでゴロンゴロンって、いきなりくつろいじゃって、それがもうほんと可愛いんですよ。で、私にも旦那にもすり寄って、初日に膝の上で寝たんですよ？信じられます？もう、この子はうちに派遣されることが決まっていたんだな、と確信しました。え？あ、うーん、それまではあんまりぬこ飼いたいって話とかはしてなかったんですけど、でも私たちの潜在的なぬこ好きをちゃんと見抜かれてたんだと思います。私もとても可愛がってるんですが、旦那はもう異常の域で。ウフフ。そうなんです。餌やるのもトイレの掃除も彼がやってくれて、もう、チイちゃん嫌がってるのに、「確保！」とかいって、やたらに触りまくるんですよ。

それが、一年くらい経った頃、予防接種で病院に行ったら、見つけちゃったんです。そう、その問題の。受付の横に迷子の掲示板があって、お会計を待つ間ぼんやり眺めてたら、チイちゃんにそっくりなぬこがいたんです。心臓が早くなってくのが自分でも分かりました。柄も失踪時期も、チイちゃんとあまりにも一緒に。そのときはそのまま帰ったんですけど、どうしても気になってしまって。黙ってれば良かったんですけど、でもやっぱり、もしぬこちゃんがいなくなって心を痛めてる方がいらっしゃったら、と思うと、ね。それで、自分の気持ちを晴らすために、と思って病院に連絡したんです。そうですね、まさかチイちゃんがうちの子ではない、なんてそんなこと信じていなかったんだと思います。もちろん今でも信じてないですけど、とにかく、あの迷いぬこがチイちゃんではない、ということがハッキリすれば自分の気持ちもスッキリするだろう、という気持ちで連絡したんです。そしたら、その連絡を受けて依頼主の方がチイちゃんに会いに来たんですけど・・・うう・・・その人、チイちゃんを見るなり、「なすびちゃん！」って言ったんです。そしたら、チイちゃんがそれに反応して、その人のところにノソノソ歩いて行って、足元に親しげにすり寄ったんですよ！

はい、今もまだ、派遣先の優位性を巡って、先方とは争っています。え？あ、はい、チイちゃんはうちにいます・・・。いえ、あ、はい。正確にはそれから夕方ちょっと帰って来る時間が遅くなってます・・・。いや、あの子もちょっとストレス発散とか、集会とか、それに美人だからモテるし、とにかく色々あると思うんで・・・え？それはないです！確かに近所の人が、別の家の軒下でチイちゃんに似たぬこが、餌をもらって食べてるところを見た、とか言っていましたけど、それはあくまで似てるぬこですから！

今でもね、家に帰ったらチイちゃんに「あれえ？うちになんでこんな可愛い子がいるのお？」とか言っちゃうんですよ・・・チイちゃんがうちの子じゃないなんて・・・私は絶



色々な家で餌を食べるぬこ（イメージ）

対に信じません。

【被害内容】

- ・派遣員（ぬこ）喪失または喪失可能性による精神的負担
- ・一匹のぬこに対する二重支払

約15万円（一年分の餌、ぬこ砂、玩具、通院費等）

【問題点／課題】

派遣員の不当な二重派遣は、昔から大きな問題の一つである。しかし、ここで問題になるのは、そこから発生する精神的負担の大きさである。近年、派遣員を「家族」と呼ぶ人々が増えている。派遣員と同一集団意識を一方的に強く持ったり、ときには所有している意識を持つことさえある。これには一世帯あたりの少人数化などが指摘されており、このような派遣員との強い集団意識により、派遣員がいなくなることへの喪失感が増大していると考えられる。また、このような精神的負担は数値化することが困難であり、訴えが正当に受理された例はほとんどないのが現状である。

2-3、合意のない派遣

【被害者による供述】

被害者 A さん（以下 A）：うちは、ぬこが飼えない家なんです。妻がぬこアレルギーでして、触ると目がかゆくなっちゃうんです。それでうちは派遣先リストに載せてもらわないようお願いしてるんですが、何度言っても来るんです。それで困ってます。

被害者 B さん（以下 B）：うちは、逆にぬこ屋敷化で。最初、庭にやって来たぬこに何となく餌をやってたら、なぜか次から次へと新しいぬこがやって来てきます。

A：夜に庭で光るものが動いている！ と思ったらぬこ、というのは日常茶飯です。ほんとおっかなくて、おちおち眠ることもできません。

B：今は常時20匹くらい、食費だけで、月5万くらいかかってて、ちょっともう、ヤバいです。

A：暖かい時期の昼間なんか玄関の扉を開けておくと、土間でいつの間にかぬこが丸くなって寝ていることなんかよくあります。ほんと完璧な丸ですからね。信じられませんよ！

B：ぬこ同士で、評判とかがたってるんじゃないでしょうか。だってあいつらの顔、いつも「当然住ませ



丸くなって眠るぬこ（イメージ）

てくれるんですよね？」ってほんと尊大なんです。え？ えさはまあ、全部オーガニックのものにしてます。ぬこたちの毛がツヤツヤして光ってくるんで、そう、サラブレッドみたいに、外で会ってもすぐに見分けがつくように、ということです。

A：夏の夜に、ベランダでビールとか飲んでたら、いつの間にか膝の上に知らないぬこが乗っていたこともありました。飢えた目でこちらを見るものですから、え？ あれは絶対飢えてる凶暴な目です。え？ 肉付きがいい、とかまあそれはありましたけど、それでつまみのマグロの刺身を半分ほど奪われてしまったり。悔しかったです。ああ、マグロの刺身？ 僕の好物なんです。

B：身重のぬこが、うちの庭で出産したこともあります。あのかきは家族総出で監視しました。子ぬこといったら・・・いやあ、悶絶ものです。あ！ いや、そういうわけじゃなくて、いや気持ち悪くて悶絶したんですよ！ 忌まわしきぬこが増えるんですから！

A：もう、何度もしつこくやって来るぬこがいるんですけどね、はあ、一応チャミちゃんって呼んでます。いや、妻との間で分かりやすいように、というだけです。そしたら、ある日チャミちゃんが、見たことないぬこと一緒にうちの玄関で寝てたんです。何かと思って声をかけたら、起き上がってニャーニャー言うんですよ。どうもね、あれはチャミちゃんが私たちに友達を紹介しに来たようなんです。もうねえ、ほんとあれにはやられましたね。二人して行儀よく座ってこちらを見上げるんです。酷いですよ、あんなの無理です。その日は触りまくったせいで妻の目がパンパンに腫れて、病院にも行かねばならな



友達と眠るぬこ（イメージ）

いほどになりました。なのに彼女は気丈に「いいのよ」と言って。私たちはこんな通院生活をこれからも送らなければならないのでしょうか。

B：去年ね、うちに子供が生まれたんです。え？ ああ、これは人間。あ、いや、ありがとうございます。それでね、ぬこたちが手を出さないか心配で。ええ、引っ掻いたりとか。それでしばらく陰で見てたんですよ。そしたらね、どうもぬこたちが当番制で子守りをしてるらしく、赤ちゃんの側でじっと座ってみてるんですよ。で、赤ちゃんが泣き出すと僕らのところに報告に来たりしてくれてね。手を出さどころか面倒見てくれて。いやあ、もうねえ！ ほら、これです。この写真。え？ そうそう、めっちゃ撮ってます。え、いや、証拠写真です。ああ、もう20匹もいて、これから先もずっと、NNNへの支払いがいつまで続くのか・・・いや、ほんとは続いて欲しいと思ってるような気も最近はしてきてしまって。もう、自分でもほんとはどうしたいのか分かりません。



ぬこ屋敷（イメージ）

【被害内容】

- ・ 傷害（アレルギーによる眼球損傷）
- ・ 恐喝（マグロの刺身 約 500 円、餌代 約 5 万円／1 ヶ月）
- ・ ストレスによる軽微な精神疾患

【問題点／課題】

ぬこアレルギーは現代病の一つである。この疾患についての正しい知識を得る努力を、NNN が怠っているということが別の報告書で明らかになっており、「ぬこアレルギーだけどぬこ大好き！」という人々に対する強制派遣が A さんのような例を引き起こしている。

また、ペット飼育不可のマンション増加によって受け入れ先は減少している。そのことから一部の場所に派遣員が集中する『ぬこ屋敷化現象』も増加している。過去のぬこ屋敷は、家主が進んでぬこを受け入れている「積極的ぬこ屋敷」であったが、現在は NNN による強制的派遣を受け入れる形で成立する「消極的ぬこ屋敷」が大多数である。

このように、人々の身体、住居の条件が変化することにより、派遣員と受け入れ先のバランスが崩れ、受け入れることの出来る、または受け入れてしまう一部の人々に、過剰な物理的、精神的負担がかかっているのが現状である。また、強制派遣については、「羨ましい」という一般論も根強く残っており、問題の根本的理解・解決には時間を要するものと思われる。

3、終わりに

このように NNN 問題増加の原因は、被害内容の大幅な変化によることがあげられる。人々の生活環境や価値観、身体的な変化など、様々な要素が絡み合い、到底解決することができない複雑なもののように見える。

しかし、今回の調査報告で浮き彫りになった具体的な課題が存在する。

まず、NNN 側がとるべき施策としては、

- ① 請求基準の整備
- ② 派遣先選定に関する基準の見直し
- ③ 精神的被害に対する考え方の基準制定

上記3点が挙げられる。NNN は人々の変化に応じて、その手法や基準を見直し、足りない部分を早急に補っていく必要がある。我々はそれをここに強く要求する。

そしてまた、人々の意識改革も今後の重要な課題となる。一定の距離を保った健全な関係性が失われることにより、精神的被害が増加していることが今回の調査で明らかになった。

- ① むやみに「可愛い」に負けない
- ② 過剰払い／不条理な派遣などに対して、毅然とした態度をとる

上記2点の項目は、あくまでも問題を解決していくための道しるべに過ぎない。問題の根本はもっと私たちの奥底にある意識の変化と絡んでいる。

私たちは、いま一度 NNN の基本理念を学び、ぬこたちと正しい関係を保ってゆく必要があるのではないだろうか。